

令和7年度（2025年度） 鎌倉療育医療センター小さき花の園における看護師の負担軽減計画

2025年4月 看護部

目標	看護師一人一人が重心看護の能力向上を実現でき、目指す看護が提供できる労働環境の整備を目指す
----	---

項目	現状・取り組みの根拠	対応方針	具体的な計画	評価
最新の知見に基づいた業務整理・業務改善を行う	人員不足や新型コロナウイルス感染症流行の影響から、研修受講等が難しい数年があり、特に医療安全や感染対策等の最新の知見を得られていない。そのため、業務改善等の根拠材料が不足し、取り組みが進められていない。	看護部委員会の委員を中心に、研修受講を推進し、受講により得た最新の知見を看護部活動に生かす	○看護管理の受講 2名 ○医療安全関連の受講 3名 ○感染対策関連の受講 4名 ○看護部委員会の開催（毎月） ○合同主任会の開催（2回）	
看護職員の確保・定着を推進し、安定した勤務体制を目指す	そのため日々の業務だけに追われ、自己のキャリアを思い描けない職員も多い状況がある。重心看護に誇りを持って、キャリアを詰める環境整備により定着支援を行う必要がある。	○自己のキャリアを思い描ける教育体制の整備により看護師の定着につなげる。 ○重心看護の魅力を伝え、人材確保につなげる。	○合同主任会にて職員支援体制の共有 ○看護師長会にて人員確保方法の検討 ○教育委員会を中心に自己のキャリアが思い描ける教育計画の検討（教育企画会議の開催） ○ポートフォリオ（自分キャリア）の見直し	
一人一人がヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）を意識し、業務改善や看護の質の向上に取り組む	数年、入退職が多く、在職年数が浅い職員が多いことから業務改善提案等が難しい状況がある。中途入職者の経験を職場内で生かしていくことができれば、寄り良い看護の提供につなげられる。	○心理的安全性の担保により、ボトムアップを推進する。 ○倫理カンファレンス等を推進し、チームで看護の質を向上させることを目指す。	○看護記録の適正化等で時間の捻出をし、カンファレンスを推進する。 ○看護部委員会活動は、職員の意見を集約して委員会活動を進めるよう意識する。	

療育スタッフとの相互理解を促進し、効果的なタスクシェアを実現する	複合疾患を有するなど、利用者が多様化・複雑化している中、看護師でなければ行えないことも増加している。生活について専門的な知識を有する療育スタッフと効果的なタスクシェアにより、利用者の生活の質の充実を図る。	○協働によるチーム医療・療育の必要性を療育スタッフと共有する。そのうえで、利用者の安全・安心と、生活の担保のため効果的なタスクシェアを推進する。	○看護・療育、合同主任会の開催 ○目的を再確認しながらの業務整理・改善	
----------------------------------	--	--	--	--